

令和8年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 文理融合の教育課程を編成し、全ての教科で生徒の総合知を醸成する探究的かつ教科横断的な学びを充実させる。 課題研究活動や体験講座を中心に、科学的思考力や多面的多角的な思考力、優れた洞察力・判断力や表現力を育成する。 	<ol style="list-style-type: none"> 文系理系にとらわれない総合知を身に付けさせるために、教科等横断的な内容を取り入れた組織的な授業改善を目指す。 SSH 指定校としての指導体制を構築し、「理数探究基礎」、「理数探究」及び「K-ARP」における課題研究活動を発展させる指導方法及び評価方法を組織的に研究する。 科学分野の実践的・体験的な講座等を通じて科学技術人材の育成を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> 教員間の相互の学び合いを通して授業力を高める。 事前に研究授業の検討を行い、教科として研究授業を実施する。事後協議では、授業改善のテーマに基づいて協議を行い、具体的な授業改善につなげる。 各教科で文理融合的な題材や先端分野の内容、探究スキルを磨く内容を扱うSSH トピックを授業内で実施する。 外部機関と連携した取組を進め、「理数探究基礎」「理数探究」の内容を拡充させるとともに、課題研究における指導法・評価法について研究し共有を図る。 学年単位の理数教育事業に加え、希望者対象の科学的体験や探究活動を行うカマクラブを実施する。 海外交流事業を継続・発展させ、実施後に他の生徒に還元させる。 	<ol style="list-style-type: none"> 教員間で他者の授業を見学する期間を設け、期間中に少なくとも1回は授業を見学するとともに、全職員で改善に向けた工夫を共有する場を設定できたか。 研究授業を計画的に教科として実践し、授業改善につながられたか。 SSH トピックの実施数が増加したか。 各事業において、外部と連携した取組を効果的に実施できたか。 各事業において参加生徒への指導法・評価法を開発・検討することができたか。 探究の授業の評価に使用するルーブリックを開発できたか。 海外交流事業を有意義な取組として実行し、その成果を他の生徒に共有できたか。 					
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> 他者を思いやることのできる人間性、主体的な態度を育成する。 学校行事、部活動と学習のバランスの取れた学校生活の支援体制を充実させる。 人権を尊重しつつ、自らの知と徳を培い生きる力をはぐくむ。 	<ol style="list-style-type: none"> 学校行事に対して、生徒が主体性を持ち企画立案・実施・検証することによって実践性・自主性・協調性を養い自己肯定感を高めることができるよう支援する。 生徒が自分自身を大切にし、援助希求のできる校内体制を整える。 他者を尊重し、自ら考えて行動する生徒を育てる。 	<ol style="list-style-type: none"> 生徒会執行部の活動、学校行事の運営、部活動における継続的な支援を行う。 現行の情報共有を軸とした教育相談体制に加え、外部機関との連携を含めた支援を検討するコア会議を運営することで、本校の支援体制を構築する。 かながわ子どもサポートドックで集約したデータを利活用し、SCやSSWと連携して支援の必要な生徒を拾い上げる。 社会の一員として想像力を持って行動できるように学びの機会を設ける。 	<ol style="list-style-type: none"> 事後アンケートにおいて、生徒の主体性や創造性に関して、肯定的に回答した生徒が90%を超えたか。 行事の計画・実施・振り返りを通して、計画的かつ継続的なサポートをすることができたか。 教育相談とコア会議のそれぞれの支援体制を確立できたか。かながわ子どもサポートドックのスクリーニングを各学年で2回行い、SCやSSWと連携して支援の必要な生徒を拾い上げたか。 公共の場やインターネット等の交流の場で、生徒が他者を思いやって行動することができたか。 					

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりのキャリア形成に則した支援体制を整備する。 難関国公立大学、難関私立大学への合格者数を増加させる。 	<ol style="list-style-type: none"> キャリア形成に向け大学での学びや職業について生徒の理解が深まるよう支援する。 生徒の成長過程を支援の中央に据え、難関大学を第一志望校に掲げた生徒が十全に力を発揮できるよう進路指導を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> 大学の研究について生徒に紹介する機会を学校行事として設定する。 ・今年度も卒業生のうち社会人として活躍している方のお話を『学習・キャリアワークブック』に掲載する。 「第一志望を貫く」指導を組織的に行い、保護者および生徒に説明会を実施し、難関大学の情報を周知する。研修会を実施し職員全体および各学年団における進路指導方針の理解を徹底する。 	<ol style="list-style-type: none"> 大学の研究内容について生徒に周知する機会を設定できたか。 ・社会人として活躍する卒業生の原稿を『学習・キャリアワークブック』に掲載できたか。 丁寧に指導を継続することで、スーパーグローバル大学(トップ型)への現役進学率を維持できたか。 					
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> 関連する諸機関、団体との連携を進め、協働に取り組むことをとおして、地域に信頼される学校づくりを行う。 	<ol style="list-style-type: none"> PTA や藤沢支援学校鎌倉分教室との連携を深め、学校行事等での交流を通して、相互の教育活動が連続的で互恵的となるような教育活動を協働して展開する。 学校外の機関・団体等との連携し、教育活動と生徒の学習成果の情報発信を推進する。 	<ol style="list-style-type: none"> 日常的に、PTA や分教室と情報の交換や共有を行い、本校生徒との交流・理解を深め、互いに良い関係が築けるような機会をのを設定を協働して推進する。 学校外の機関・団体を学校の教育活動に生かしたり、生徒が地域の機関・団体へ参加や協力したりする機会の設定を推進する。 	<ol style="list-style-type: none"> PTA 活動との連携を深め、生徒とPTA を繋ぐ多様な交流機会を設定できたか。 ・分教室職員と連携し、分教室との多様な交流機会を設けることができたか。 生徒が主体的に地域の機関・団体へ参加協力したり、生徒の学習成果を発表する機会を設けたりすることができたか。 					
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> 校内組織をより活性化し、全職員の情報共有や運営参画を進める。 施設・設備の維持や管理を適切に行い、生徒の安全と教育成果の拡充を図る 	<ol style="list-style-type: none"> グループ業務、WGの業務の重なりを協議し、全職員が個々の役割を理解し、主体的・協働的な業務参画とグループ、WGの業務の精選及び効率化を推進する。 生徒・職員が災害時に的確に学校の施設、設備を利活用できる、災害や地域のぼうっ際に対する意識の高い学校づくりの取り組みを推進する。 	<ol style="list-style-type: none"> 各グループやWGからの意見集約や情報共有を通して、業務の精選及び効率化を推進する。 地域の避難所に指定されていることを踏まえたうえで、生徒の安全を確保できる防災計画の策定と訓練、防災教育を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> 9月の企画会議にて業務の精選及び効率化の方向性について示し、下半期に全職員に向けて共通理解を図り、令和9年度に業務の精選及び効率化を実現することができたか。 生徒・職員が、地域の避難所として指定されていることを理解し、校舎の構造や防災設備についての理解を深める訓練や防災教育を実施できたか。 					